



人間生活と自然環境の関わり

な菌と共生して暮らすほうがリスクを減らすことができる。

「植物工場」などでの作物栽培は、作物栽培に土はいらないという思想に基づいたものであり「衛生的」「環境に優しい」などの宣伝文句のもとに推進されている。

しかし土の上で栽培された作物が「衛生的」でないという根拠はないし、無菌状態が不可能な現実においては、常在菌を排除した系に病原菌が侵入した場合、かえってその蔓延を許すことになる。

プラスチック、ガラス、金属などの工業資材を多量に使用して建設し、多量の電力や水を利用して栽培を行う植物工場が環境に優しいとは言えないし、安定な栽培技術でもない。農産物の収穫残渣

やかけ流しの水耕液は廃棄物として生産現場の系外に排出される。「植物工場」で栽培される作物の種類も限られ、多様性に乏しい。土の上で日光を浴びてさまざまな微量要素を吸収して育った作物と比べて、養分が富んでいるという可能性も低い。

**お金を出せば買える**

農作物に対してでもそれが土の上で生産されるものという意識が失われ、お金を出せばどこからか買うことができるものという意識の方が高くなっているのではないだろうか。異常気象、大地震や噴火、戦争などが起れば、日本人はすぐにも餓えてしまう状況にあることを自覚する必要がある。

し、清浄野菜と呼ばれるような栽培体系にこの菌だけが侵入すると、食料として供給された場合に感染被害を及ぼすことになる。

本来子供たちは土遊び

が好きなのであり、乳幼児はあちこちを這い回り、そのまま手を口に運ぶことも多い。その際土

の中にはいるが、これらの菌が悪さをしているとすることはない。かえって体内の菌の組成を豊かにし、病原菌に対する抵抗力を高めていると考えられる。

また、各種腸内細菌は人間の健康維持に貢献している。人間の生活圏で完全無菌の環境を作ることは不可能であり、多様

人間はもともと自然生